

運動会も一段落し、日一日と紅葉も深まって参りました。

予定期日から多少遅れましたが藩制史特集号三を配布できるようにになりました。

巻頭論文は芦刈政治氏の「中川氏と旧大友領民」を当てさせてもらった。今までの本県近世初頭の研究のほとんどは、大友義統の除国を機に、大友氏とは無縁になっているのが現状である。その空白を埋める必要を痛感していた時だけに誠に重要なもので、今後の研究の出発点にふさわしいものである。

秦政博氏のもものは、本県近世史の根幹にふれる研究で、単に臼杵藩の事例として受けとめるだけでなく、芦刈氏の研究と同様今後の研究テーマの選定に大いに寄与するものである。高原氏の研究は今まで本誌に発表された本県近世史の基本に係る一連のもので、あらゆる史資料の比較検討による成果だけに近世史研究の基礎史料に貴重なものである。

中山氏の論文は、大分県地方史研究会の大会で発表されたもので、特集号には性格を異にするが収録させていただいた。内容が高度なため難解であることが惜しまれる。

岩野氏の庚申調査は、一件ごとに丁寧に調査されなくては記述し得ない労作であり、殊に庚申講の現状までに論及している点は、掻い所に手のとどいた構成である。中山信人氏は中世文書研究会を通じて古文書解読の力を身につけたあとが十分に窺える。最後に、紙数を補うため、編集者が関係した佐伯藩史料調査の結果を報告した。

(橋本記)

昭和五三年九月十五日印刷
昭和五三年九月二十日発行

大分県地方史 第九〇号

編集人 橋本 操 六

発行人 渡辺 澄 夫

印刷人 高井 久 雄

大分市上野町七番二十五号

印刷所 三恵印刷株式会社

電話 ④〇一三三

大分市且ノ原七〇〇一七八七〇一一

大分大学教育学部国史研究室内

発行所 大分県地方史研究会

(振替下関五二九四番)